

## SGH国内フィールドワーク（平和班）

### ①長崎大学経済学部



7月24日（月）、平和班のメンバーは長崎大学経済学部の「交流プラザ」において、井田洋子教授から「平和について考える」と題する講義をしていただきました。「平和」とは、単に戦争がない状態（消極的平和）のこののみを言うのではなく、貧困や差別などもない状態（積極的平和）までを含んで考えるべきだということを伺い、改めて身の周りを見つめなおし、研究テーマを考えていくきっかけになったようです。「こども兵士」にまつわる話など、遠い世界で起こっている悲惨な出来事を、自分たちのそばに引き寄せて考えることができたようでした。

その後各班に分かれ、留学生の方々を囲んで、平和に対する意見交換を行いました。初めはやや緊張した生徒たちもいたようでしたが、次第に打ち解けて議論も活発になっていきました。メンバーチェンジを数回行なううちに、どの班も終了時間までに話し足りない様子で交流会を終えました。こちらの体験も、自分たちとはちがう視点を学ぶ貴重な機会になったと思います。



### ②平和公園・原爆資料館

8月1日（火）平和班の生徒は、平和公園と原爆資料館でフィールドワークを行いました。事前に質問項目や予想される回答を考えるなどの準備をし、平和公園へ来訪された方々へアンケート活動を行いました。各班とも、活動で得られた回答から、平和について人々の考えの広さや深さを実感することができたようです。

この後、原爆資料館に行き、長崎市被爆継承課の松尾隆課長からお話をお伺いしました。原爆投下時のジオラマ画像の工夫や原爆の爆発過程について、分かりやすく説明していただきました。原爆資料館へ訪問された方々に原爆で傷ついた人々について知ってもらうことが、長崎が発する平和へのメッセージに繋がるということを教えてくださいました。また、国によって「平和」への認識が異なるという話題にも触れていただき、生徒たちはさらにグローバルな課題研究に対する視野を広めることができたようです。

